

愛知県感染症情報

Infectious Diseases Weekly Report

平成 17 年第 48 週(12 月 1 週 11/28 ~ 12/4)

(作成) 愛知県感染症情報センター

連絡先:052-910-5619 E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

12 月報は 49 週報に掲載予定

トピックス

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)の集団発生について

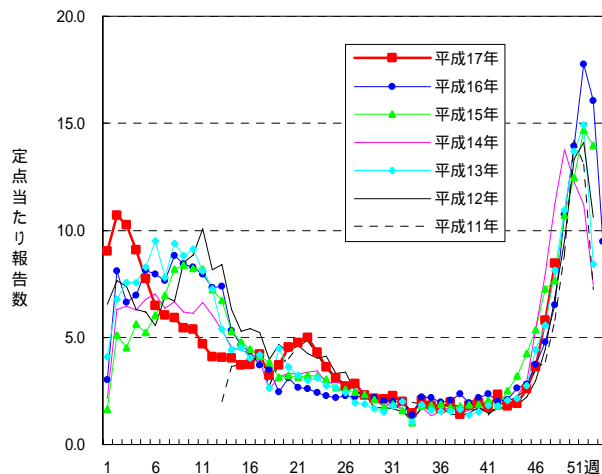
豊川保健所管内の小学校で流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)の集団発生がありました。一般的な感染予防としては、うがいや手洗いを励行すること、感染者との濃密な接触を避けること等が推奨されます。

詳しくは以下の記者発表資料(平成 17 年 12 月 6 日)をご参照下さい。

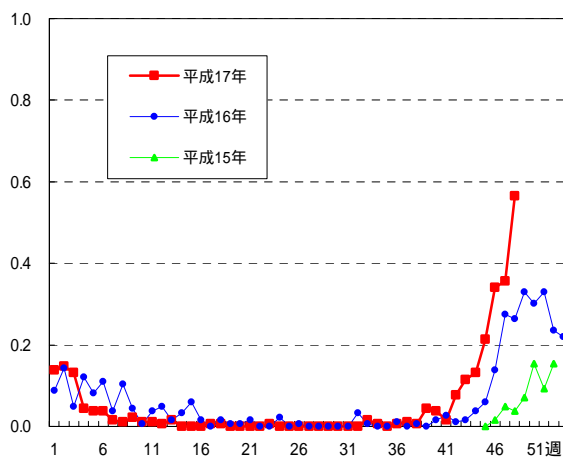
(http://www.pref.aichi.jp/kenkotaisaku/press/kansennshou/webpress_20051206.html)

流行状況

感染性胃腸炎



RSウイルス感染症



その他の疾病のグラフについては「[グラフ総覧](http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf)」(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>)をご覧ください。

疾患名	前週	今週	疾患の概要
感染性胃腸炎	5.8 ▲	8.5 ▲	細菌(病原性大腸菌、サルモネラなど)や、ウイルス(ロタウイルス、ノロウイルスなど)によって引き起こされる胃腸炎
RSウイルス感染症	0.36 ▲	0.57 ▲	RSウイルスによる急性呼吸器感染症で、2歳以下の乳幼児に好発する。

愛知県感染症情報センター (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>)

国立感染症研究所感染症情報センター (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)

麻しん・風しんの予防接種方法が変わります (http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/hi_3.html)

平成 17 年度疾患別ウイルス検出状況速報 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/prompt.html>)

<インフルエンザ関連リンク>

平成 17 年度インフルエンザワクチン株について (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/flu0511.html>)

今冬のインフルエンザ総合対策について (<http://www.mhlw.go.jp/houdou/0111/h1112-1.html>)

厚生労働省 新型インフルエンザ対策関連情報

(<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/index.html>)

定点コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

インフルエンザ 10 人すべてA型、ワクチン接種済み 3 人

今週から感染性腸炎急に増加、軽症
7 歳女 カンピロバクター

【一宮市 あさのこどもクリニック】
感染性胃腸炎がふえてきた。
インフルエンザ全員A型

【一宮市 後藤小児科医院】
病原性大腸菌O8 6 歳男
インフルエンザ急増 5 名A (+)

【一宮市 城後小児科】
インフルエンザA型は、小学生、成人にも認められました（先週は保育園児のみ）。

【一宮市 平谷小児科】
インフルエンザはすべてA型です。

【一宮市 一宮市立市民病院】
インフルエンザ出ていません。

【一宮市 医療法人かすがい内科】
ムンプス髄膜炎 2 名入院
アデノウイルス腸炎 1 名

【稲沢市 稲沢市民病院】

嘔吐、頭痛、発熱を主訴とする胃腸炎に加えて、水様下痢を主訴とする胃腸炎が加わってきました。

1 歳児で風疹初感染がありました。

【犬山市 武内医院】
A 型インフルエンザ 3 例（ワクチン済）。
ウイルス性胃腸炎多し。ロタ、アデノに反応なし。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
嘔吐を伴う感染性胃腸炎が急増しています。
A 群溶連菌感染症 8 名と多く認められました。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】
嘔吐下痢を伴った胃腸かぜが未だ続いて居ります。

【春日町 丹羽医院】
インフルエンザ 全てAです。

【津島市 田中こどもクリニック】
インフルエンザA型 8 名
マイコプラズマ肺炎 (+) 25 歳女 1 名

【津島市 医療法人参育会加藤医院】
津島在住の小学生 インフルエンザA型
1 人いました。

【七宝町 医療法人村上医院】

尾張東部地区

肺炎を含めてマイコプラズマ肺炎が多い。
ロタウイルス感染を含めた胃腸炎、溶連菌感染は多い。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】
溶連菌感染症流行続いています。

マイコプラズマ感染症も多くみられています。

その他、水痘、流行性耳下腺炎、散発で、嘔吐、発熱で受診される症例が増えてきました。

インフルエンザは、まだみられません。

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
大腸菌O125 男 2 歳

【尾張旭市 旭労災病院】
RSウイルス感染、溶連菌感染、感染性胃腸炎が目立ちます。

RSはすべて迅速反応陽性です。

カンピロ腸炎 3 例

【小牧市 志水こどもクリニック】

ロタウイルス腸炎の入院がありました。

【春日井市 春日井市民病院】
胃腸かぜ多数

手足口病続発中

カンピロバクター腸炎 1 例

アデノ感染症 2 例

【春日井市 朝宮こどもクリニック】
RSウイルス感染症多い。
アデノ感染症も散見されます。

【小牧市 小牧市民病院】
2 か月女 RSウイルス感染症

【美浜町 愛知県厚生連知多厚生病院】
インフルエンザA 家族内感染 3 例あり

【半田市 おっかわこどもクリニック】
感冒性胃腸炎 散発

【南知多町 医療法人大岩医院】
アデノウイルス陽性の腸炎あります。

【東海市 小児科ハヤカワ医院】

感染性胃腸炎が多く流行性耳下腺炎も多くなりました。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

感冒性嘔吐下痢性が増加中です。

【春日井市 竹内医院】

今年初のインフルエンザA型(+) 4歳女、2歳男(兄弟) 34歳女(母親)

【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

4歳男、6歳男 strepA(+)
2か月男、7か月男 ディレクティジェンRSV(+)

3歳女 肺炎

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
インフルエンザはいません。

【岡崎市 花田こどもクリニック】

3歳男 病原性大腸菌O1 VT(-)

【岡崎市 にいのみ小児科】

溶連菌感染症、嘔吐症が目立ちます。

【碧南市 永井小児クリニック】

アデノ(+)の扁桃炎 2例(4歳、8歳)

【刈谷市 田和小児科医院】

インフルエンザ 検体数 47

【安城市 安城更生病院】

感染性胃腸炎 多数

RSウイルス 1名

手足口病 3名

突発性発しん 6名 と多く認めた。

【知立市 宮谷クリニック】

溶連菌感染症が増えてきました。

【三好町 三好町民病院】

ロタウイルスが増加

【西尾市 やすい小児科】

1歳女 病原性大腸菌O18

嘔吐を伴う胃腸炎急増

【西尾市 山岸クリニック】

1歳男、1歳女 アデノウイルス感染症

7か月女 RSVウイルス感染症

【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

感染性胃腸炎流行中

【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

溶連菌感染流行中

RSV感染 6カ月未満の乳児に増えてきました。

【豊橋市 あずまだこどもクリニック】

RS流行しています。酸素必要とする児半分くらい。

マイコプラズマは減少

【豊川市 豊川市民病院】

ロタウイルス腸炎 1歳女 今シーズン初

【蒲郡市 蒲郡市民病院】

発熱、せき、ぜいめいで入院する乳児にRSV感染が目立ちます。

【豊川市 ささき小児科】

小5の男子、今シーズン初めてのインフルエンザAです。

【豊川市 医療法人こざわ小児科】

散発的に手足口病あり。

【田原市 かわせ小児科】

細菌性赤痢				<関連リンク> 二類感染症 (http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#2-3)			
番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	備考
1	衣浦東部	71	男		11 / 27	11 / 29	推定感染地域 ベトナム カンボジア

腸管出血性大腸菌感染症				<関連リンク> (http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/eaggec.html#2_4)			
番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	備考
1	知多	3	女	11 / 26	11 / 28	12 / 3	O157 VT1(+) VT2(+)

四類・五類（全数把握）感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

つつが虫病 1 例

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#4-15>)

後天性免疫不全症候群 1 例 (エイズ関連症候群、推定感染地域:不明、推定感染経路:不明)

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/hiv.html>)

朝夕冷え込むようになりました。指先が冷たくてコートの袖口の中に引っ込めたりしているのを小児科医の現役だった頃は「ホラ、ドラエモンの手だよ」とか言っていましたが最近の学生諸君はみんなドラエモンの手みたいです。ところでいつも貴重な情報を有難うございます。11 月後半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からは急性肺炎（マイコプラズマ感染を含む）、喘息性気管支炎といった下気道炎とウイルス性胃腸炎が主体で重症例では入院が目立つ、城北病院渡辺先生からは嘔吐が主な急性胃腸炎が 11 月中旬より増加、まだ下痢を伴う例は少なくたまにロタ陽性例あり、乳児の R S による喘息様気管支炎が多く（入院例も多い）、細菌性髄膜炎 2 例、まだマイコプラズマ肺炎が多く、インフルエンザはなく、発熱者が少し増え、時間外患者も増加、第二日赤岩佐先生からは下痢のないウイルス性嘔吐症と思われる例が目立ち、R S ウイルスによる細気管支炎の入院が多い、千種区今枝先生からは水痘 4 歳女 1 名、他に熱だけのカゼ散発、三菱病院入山先生からは感染性胃腸炎 3 名（カンピロ胃腸炎で入院 1 名、病原性大腸菌 O6、O153 が各 1 名）、R S 喘息性気管支炎の要入院例 1 名、マイコプラズマ性気管支炎・肺炎の入院 5-6 名、ロタ陰性で脱水で入院した嘔吐下痢症 2 名、中京病院柴田先生からは水痘散発、R S ウイルスによる下気道炎の入院例パラパラ、大同病院水野先生からはマイコプラズマ感染症（肺炎の入院が目立ち気管支喘息に合併して喘息重積発作をおこした入院例あり）や R S ウイルス感染症多発、胃腸炎（嘔吐腹痛）が多いとのお手紙でした。
- 2) 尾張地区：犬山市武内先生からは感染性胃腸炎多発中で、A 群溶連菌咽頭炎、水痘、ムンプスが散発中、江南市昭和病院小児科からはウイルス性胃腸炎が多く（要入院例が目立つ）、ロタ陽性例も 2 例あり、R S ウイルス感染症の入院が目立つ、市立半田病院中島先生からは感染性胃腸炎（ロタ陰性）が目立ち、喘息・喘息性気管支炎が多いとのお手紙でした。
- 3) 三河地区：トヨタ病院木戸先生からは胃腸炎があるがロタらしくなく、喘息性気管支炎が多く、インフルエンザ桿菌髄膜炎入院が 3 例、R S ウイルス感染症増加、加茂病院梶田先生からはロタウイルス性腸炎 1 名で今期初発、R S ウイルス感染症の要入院例が目立ち 7 か月未満児で酸素投与を要する例あり、喘息 + マイコプラズマ肺炎の入院が目立つ、刈谷市田和先生からは水痘時々、感染性胃腸炎時々（軽症の下痢嘔吐、中に白色便のものもあるがロタ陰性）、碧南市永井先生からは溶連菌感染症とアデノウイルス感染症が目立ち R S ウイルス感染症と仮性クループが時々あり、豊橋市長屋先生からはウイルス性胃腸炎、水痘、ムンプス、溶連菌感染症などが少数あり、とのお手紙をいただきました。有難うございました。

2005 年 11 月 18 日（80 巻 46 号）<http://www.who.int/wer/2005/wer8046/en/>

リンパ系フィラリア症（LF。注：リンパ系に寄生してリンパ管炎や象皮病、陰のう水腫をおこす蚊媒介線虫感染症。熱帯全域に分布するバンクロフト系状虫と東南アジアに常在するマレー系状虫があり、蚊の吸血で子虫（マイクロフィラリア）が人体内に侵入、リンパ管で成熟・産卵、子虫が流血中に深夜出現、蚊の吸血で感染拡大。犬のフィラリアは人に感染しない）。地球規模 LF 根絶計画（Global Programme to Eliminate LF, GPELF）に関する TAG（Technical Advisory Group, 専門家助言者集団）会議：9 月 20-23 日 WHO 本部で開催（長文。概略だけ）。討論内容：薬剤集団投与（Mass drug administration, MDA）が大きな成果をおさめている。WHO の MDA 方式で薬剤投与された人は世界で 00 年には 300 万人だったが 04 年には 1 億人に増加、インドでは 96 年以降に 3 億 3 千万人がジエチルカルバマジン（DEC）単独投与をうけている。しかし東南アジア地域やアフリカ地域では普及していないし国際的支援も停滞ないし減少中で TAG-ELF は重要性和緊急性を強調している。DEC の供給、精度管理、安全性監視が重要。検査：バンクロフト系状虫の抗体測定法の再検討。WHO 熱帯病研究報告では LF 伝播は最近確実に減少中。薬剤投与範囲（Coverage）の向上：MDA 非参加（Non-compliance）率がエジプト、ガーナ、ハイチ、インドで 2-18% でありブルキナファソ、フィリピン、スリランカなどの調査を WHO は支援中。MDA 有効性評価のためのマイクロフィラリア血症、抗フィラリア抗体の定点観測では MDA は有効で最近の傾向として二剤併用が適切で、今後も定点観測継続が必要である。血中マイクロフィラリア濃度の検査が重要。ガイアナにおける DEC 強化食塩投与結果は良好。二剤併用（アルベンゾール + DEC またはイベルメクチン）が推薦される。二剤併用の安全性：良好（注：発熱、リンパ管炎、頭痛やめまい、悪心嘔吐等がある）。MDA の中止時期：TAG 委員会による検討が進行中。血中マイクロフィラリアが低濃度の場合：マイクロフィラリア 10/ml 以下では蚊による伝播はない。MDA 中止を要する常在国：エジプトの事例（略）。伝播の消失の確認：中国を含めた一部の国で検討中。検査法：新しい抗体測定法が TAG で評価され標準化と MDA 評価への利用が急がれる。ブルギア系状虫（注：バンクロフト、マレーと異なる系状虫で分布範囲はせまい。臨床像はほぼ同じ。略）の検査法が開発された。TAG が導入を勧告。分子疫学的手法の導入。合併症の運動障害が重要で WHO のスケジュールにしたがって障害発生予防が進められているか監視すること。LF 管理の経済効率は大きく、また LF 管理は他の疾患予防活動介入の大きな好機である。

11 月 11-17 日届出。コレラ：ギニア、リベリア、サントメプリンシペ。

鳥インフルエンザ。中国：05年11月17日、中国健康省は同国初の人H5N1ウイルス感染2例を確認した。第1例は9歳男。湖南省南部居住。10月17日呼吸症状で入院、完治。第2例は24歳女性。安徽省南部の養鶏場の農婦。11月1日重症の肺炎で入院、11月7日死亡。他に2例湖南省で疑い例あり、1例は上記第1例の姉、10月16日発病、翌日重症肺炎で死亡、検査材料不適切で検査不能、他の例は36歳学校教師で10月24日肺炎で入院、検査中。同国では養鶏場のH5N1激増に応じてサーベイランス強化中。10月19日以降6省で11事例の鶏の集団発生あり、上記の湖南省、安徽省と新キョウウイグル自治区が新規発生地区。

鳥インフルエンザ。インドネシア：11月17日、保健省が人H5N1感染2例を新規確認(香港WHO検査室)。2例とも死亡。第1例は16歳女性、11月4日発病、8日死亡、第2例は20歳女性、11月4日発病8日死亡。同国の累積11例(死亡7)。

鳥インフルエンザ。タイ：10月14日、保健省。H5N1人新規感染1例報告。18か月男。バンコク近郊居住。11月1日発病、治癒。同国の累積21例(死亡13)。

黄熱。マリ共和国の近況：保健省報告。10月10-27日に21例(死亡14)。血液14検体中4検体がダカールのパスツール研で陽性。保健省、WHO、国境なき医師団がサーベイランス継続中。保健省はワクチン追加緊急接種400万人分を要請中。

ポリオ。ポリオ根絶計画助言委員会の勧告：10月11-12日、WHOで開催された委員会の概略。1)野生株ポリオウイルスの伝播を断ち切ること。作戦の優先順位：05年10月時点で野生株によるポリオ患者が発生しているのは15カ国。従来多発していたアフガニスタン、インド、パキスタンは04年の同期より50%減少しており、世界全体の野生株ポリオ患者の60%以上が過去において流行が根絶されていた国であり、アンゴラ、エチオピア、エリトリア、ソマリア、インドネシア、イエメンが注目されている。勧告は流行地区での流行株血清型に合わせた血清型の単味ワクチン(mOPV)の普及、サーベイランスの感度を維持すること(AFP届出数が小児人口10万当り2以上)、発生届出後4週以内に対策開始、ポリオワクチン定期接種率向上と維持。最優先として、まずナイジェリア(ナイジェリアの現状紹介は長文であり、これまでも何度か紹介しているので略)。流行国のmOPVを用いた定期外緊急接種(supplementary Immunization Activities, SIA)の強化：アフガニスタン、エジプト、インド、パキスタンでは1型mOPVが採用されていてアフガニスタンとインドの特定地区では3型mOPVが予定。勧告として疫学的、ウイルス学的調査の強化、1型野生株流行地区では1型mOPV接種拡大、混合流行地区では1型mOPVを優先、ナイジェリアについては北部流行地区の定期接種とSIA強化。国際間伝播の断絶：輸入例を発端とした流行が注目され、最重要課題となっている。定期接種の接種率90%を維持して輸入例から周囲への伝播をくい止め、サーベイランスを継続する、輸入例発生後至急SIA開始、6-12か月間は継続。2)OPV中止プログラムの見直し：すでに78巻28号(03年)にWHOの公的文書(Position paper)が発表されている。経口生ワクチン使用から不活化ワクチンへの切り替えについてはWHOガイドラインに従うこと。ガイドラインにしたがい、サーベイランス強化。セービン型不活化ワクチンとソーク型不活化ワクチンの比較研究を行なうこと。3)今後の方針として04年9月に発表された勧告の普及につとめる。

11月18-24日届出。コレラ：ガーナ、ギニアビサウ。

愛知県感染症情報

2005年第1週～第48週(平成17年1月3日～平成17年12月4日)(累計)

愛知県衛生研究所

	定点数					RSウイルス感染症	インフルエンザ(高病原性を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	51	13	472	80,440	2,905	8,377	35,612	11,512	3,084	987	5,814	59	34	12,429	23	9,136	25	1,538	11	11	263	2	1
総数 (名古屋市は除く)	125	112	24	37	12	377	63,971	2,218	5,770	25,557	9,220	2,556	780	4,497	46	18	9,767	14	7,270	18	1,187	11	11	263	2	1
名古屋名古屋市	70	70	11	14	1	95	16,469	687	2,607	10,055	2,292	528	207	1,317	13	16	2,662	9	1,866	7	351					
尾張東部瀬戸	9	9	2	3	1	32	4,175	527	803	1,313	469	78	38	245	2	2	673	3	346		41			70		
海部津島津島	7	7	2	2	1		3,248	24	154	1,740	394	90	85	168	1	1	542		636		47	1	2	15		
尾張中部師勝	4	4	1	1			2,064	2	148	807	236	37	22	94		1	404		221	2	74					
尾張西部一宮	16	12	3	4	1	10	4,617	180	372	2,191	625	304	41	405	2	1	642		738	1	128	1		1		
尾張北部春日井	9	9	2	3	1	142	7,536	396	522	1,604	689	276	38	447	13	6	910	1	346		73	2	4			1
	江南	6	6	1	2	16	2,734	181	563	2,153	749	109	44	447	1	1	782	2	593		59					
知多半島半田	6	6	1	2	1	11	2,954	172	248	1,138	423	250	42	243	1		150	1	310	3	65			4		
	知多	7	7	2	2	23	3,769	139	444	1,205	484	69	29	308		1	459	1	455	1	31					
西三河南部岡崎市	11	7	2	2	1	14	6,140	61	401	600	740	192	55	582	5		971		675	4	74					
	衣浦東部	13	13	2	4	1	24	9,039	90	561	2,137	1,140	181	140	438	3	1	1,013	3	670		214			13	
	西尾	5	5	1	2	1	13	1,893	20	281	1,012	459	189	41	201			504		247	1	30			2	
西三河北部豊田市	9	9	2	4	1	37	4,653	51	470	5,058	857	180	68	382	10	2	1,150	1	558		116	3	4	115	2	
東三河南部豊橋市	12	8	2	4	1	16	6,866	292	517	2,472	571	262	62	317	4	1	711		340	2	150	4		29		
	豊川	9	8	1	2	1	39	3,617	78	275	2,095	1,331	329	73	4	1	831	2	1,126	4	85		1	14		
東三河北部新城	2	2			1		666	5	11	32	53	10	2	5			25		9							

愛知県感染症情報

2005年第1週～第48週(平成17年1月3日～平成17年12月4日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザを 除く。(高病原性鳥 インフルエンザを 除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
計	377	63,971	2,218	5,770	25,557	9,220	2,556	780	4,497	46	18	9,767	14	7,270	18	1,187	11	11	263	2	1
～6ヶ月	129	319	18	11	389	237	21	2	314	13	1	108		7		10					
～12ヶ月	82	960	97	32	1,751	541	138	46	2,465	8		717	2	32		10					
0歳																	4		4		
1歳	79	3,288	360	155	3,717	1,553	610	46	1,592	4	4	2,154	3	339		37		1	38		
2歳	47	3,690	286	294	2,634	1,533	470	44	1,111	5	3	1,699	2	665	1	37			38		
3歳	13	4,350	433	623	2,396	1,913	468	84	13	3	1	1,721	1	1,164	1	52	1	1	38		
4歳	12	5,563	386	1,025	2,142	1,587	367	116	1	3	1	1,305	1	1,555		40			28		
5歳	7	5,497	257	1,173	1,860	918	235	130		1	3	934	3	1,279	1	34					
6歳	6	5,354	150	839	1,315	422	97	95		2		489	1	864	1	24					
7歳	2	4,044	71	528	975	204	46	68			2	257		484		14					
8歳		3,685	39	322	816	99	35	53		1		139		286	1	18					
9歳		3,205	34	224	631	51	19	41				90	1	174		10					
5歳～9歳																		3	63		
10歳～14歳		5,840	45	308	1,587	109	17	44	1	1	1	102		251		36			24	1	
15歳～19歳		993	4	30	545	12	1	1				9		25	1	33			3	1	
20歳～			38	206	4,799	41	32	10		5	2	43		145			6				
20歳～29歳		4,273													4	201		1	5		
30歳～39歳		6,144													3	316		2	6		1
40歳～49歳		2,633													2	111		2	3		
50歳～59歳		1,859													3	88		1	3		
60歳～69歳		1,150														64			5		
70歳～																52					
70歳～79歳		685																	3		
80歳以上		439																	2		